

### 3. 臨床検査

臨床検査係が平成2年度に実施した試験検査業務は、腸内細菌検査、赤痢アメーバ等の原虫検査、梅毒血清反応、結核菌検査及び保健所外来検査（出向）である。試験検査業務と検査件数を表1に示した。

以下事項別に述べる。

#### 1) 腸内細菌検査

腸内細菌検査は39,007件で、内訳は健康診断等の一般依頼3,242件、食品取り扱い業務従事者を対象とした勤奨検便35,278件、チフス等の防疫検便385件、その他102件であった。（表2）

平成2年4月に東区の児童養護施設にて、多数の児童が発熱、下痢、嘔吐の症状を示したため、赤痢の疑いで、職員及び収容児童76名の検便を実施したが、赤痢菌は、検出できなかった。後日SRVによる集団下痢症と判明した。

平成2年10月に他検査施設で定期検便より、同一型のサルモネラが、複数の従業員から検出された、市内宿泊施設の職員102名の検便を実施、同型のサルモネラを4名から検出した。

海外旅行者増加にともない本年度は毒素原性大腸菌、*Shigella sonnei* 等各種細菌が検出された。

平成3年1月～2月にかけて、バリ島関連の赤痢菌検査が多発した。

チフス、パラチスA菌のファージ型別を依頼した結果はチフス菌2株でファージ型M1が1株、B2が1株であった。一方パラチスA菌2株はファージ型1が2株であった。

#### 2) 赤痢アメーバ

赤痢アメーバ症は年々増加しており本年度は3事例の届出があり、43名の接触者検便を行った。赤痢アメーバ症には肝膿瘍をとまなう重傷な事例が多いが、本年度の3事例とも腸アメーバであった。

表2 腸内細菌検査件数

区分	計	東	博多	中央	南	西	城南	早良
総計	39,007	6,999	6,499	4,653	7,201	5,109	3,304	5,249
依頼	小計	38,520	6,881	6,368	4,527	7,189	5,035	5,217
	一般	3,242	273	211	1,004	1,224	288	101
	勤奨	35,278	6,608	6,157	3,483	5,961	4,747	5,116
行政	小計	487	118	124	126	12	74	32
	チフス	19	5	2	4	3	1	5
	赤痢	322	104	117	15	7	72	7
	経過者	36	9	4	2	2		18
	海外旅行者	8		1	3		1	2
	その他 (再掲)	102 (79)		(7)	(26)	(27)		(1)

表1 検査件数総括表

区分	計	保健所		
		依頼	行政	
計	69,244	68,463	780	
小計	46,255	45,474	780	
細菌・血清	腸内細菌	39,007	38,520	487
	その他の細菌	31	0	31
	結核菌	83	6	77
	原虫(赤痢アメーバ)	43	0	43
	梅毒血清反応	951	738	213
	飲料水細菌検査	6,140	6,140	0
小計	22,989	22,989	0	
保健所検査	一般検査	19,968	19,968	0
	尿沈渣	1,815	1,815	0
	細菌塗抹	2	2	0
	便寄生虫	139	139	0
血液検査	潜血反応	1	1	0
	血球計算	281	281	0
	血色素	411	411	0
	全血比重	8	8	0
	A B O式血液型	269	269	0
R h式血液型	95	95	0	

#### 3) 梅毒

梅毒血清反応は951件の検査を実施した。その内訳は一般依頼738件、行政依頼は婚姻200件、医療扶助8件、妊婦5件であった。（表3）検査法はTPHA法、ガラス板法及び凝集法を同時に実施し、必要に応じてFTA-ABS法を実施した。陽性は計30件（3.2%）で3法とも陽性は12件（1.3%）、TPHA法のみ陽性7件（0.7%）、ガラス板のみ陽性4件（0.4%）、TPHA法とガラス板法陽性3件（0.3%）、TPHA法と凝集法陽性3件（0.3%）であった。

また、年齢別では3法とも陽性は高齢者に多く、陽性、件数30件中19件は60才以上であった。(表4)

表3 梅毒血清反応件数

検査法	ガラス板法	凝集法	TPHA法	FTA-ABS
計	951	951	951	5
一般依頼	738	738	738	3
行				
婚姻	200	200	200	2
妊婦	5	5	5	-
政				
医療扶助	8	8	8	-

4) 結核菌検査

7保健所より依頼のあった83件の結核菌検査を実施した。塗抹検査は2件陽性であったが、いずれも培養陰性であった。

また、培養検査では、非定型抗酸菌12株を分離した。

5) 飲料水の細菌検査

飲料水の検査は井戸水4,354件、浄水1,691件、その他95件であり(表5)、井戸水の依頼検査では一般家庭とボーリング業者からの依頼及び下水工事のための事前調査等の依頼で浄水の依頼検査は主として「建築物における衛生の確保に関する法律」に基づくものである。

本年度は大腸菌による井戸水汚染事件の影響で一般依頼件数が急増した。

表5 結核検査件数

区分	計	東	博多	中央	南	西	城南	早良
検査件数	83	11	22	6	6	13	3	22
塗抹陽性	2					1		1
<i>M. scrofulaceum</i>	3	1		3		3		1
<i>M. kansasii</i>	3					1		
<i>M. fortuitum</i>	4					1		
<i>M. avium</i>	2					1		

表6 飲料水細菌検査件数

区分	計	井戸水	浄水	その他
保健所				
計	6,140	4,354	1,691	95
東	662	476	177	9
博多	469	317	142	10
中央	999	200	734	65
南	1,464	1,198	263	3
西	957	852	101	4
城南	680	592	86	2
早良	909	719	188	2

表4 梅毒血清反応陽例(+ : 陽性)

No.	性・年齢	ガラス板	凝集	TPHA	No.	性・年齢	ガラス板	凝集	TPHA
1	M 21	±	-	+	16	F 80	+	+	+
2	M 62	+	+	+	17	M 79	-	-	+
3	M 41	+	+	+	18	F 18	±	-	-
4	F 70	+	+	+	19	F 21	±	-	-
5	M 80	-	-	+	20	F 76	+	+	+
6	M 80	-	-	+	21	M 75	-	+	+
7	F 82	+	-	+	22	F 22	+	-	-
8	M 71	-	+	+	23	M 67	+	+	+
9	M 41	-	-	+	24	M 74	+	+	+
10	F 27	+	+	+	25	M 29	-	-	+
11	M 70	+	+	+	26	F 57	-	+	+
12	F 82	-	-	+	27	F 30	±	-	-
13	F 24	+	+	+	28	M 79	+	+	+
14	M 81	-	±	+	29	F 78	+	+	+
15	F 87	±	-	+	30	M 72	-	-	+

6) 保健所外来検査

7 保健所へ一般健康診断と成人健康診断のため出向した。出向は各保健所とも1週間に2日午前中に1名である。総件数は22,989件であった。表7に各保健所での検査件数を示す。

表7 保健所外来検査件数

区 分	計	東	博 多	中 央	南	西	城 南	早 良	
計	22,989	4,170	2,988	3,563	4,351	2,681	2,857	2,379	
尿	一 般 検 査	(成人) 11,545	1,925	1,613	1,532	2,406	1,262	1,794	1,013
		19,968							
		(一般) 8,423	1,552	1,042	1,524	1,496	1,042	739	1,028
	沈 渣	(成人) 1,713	440	190	215	163	287	226	192
		1,815							
	(一般) 102	57	3	15	16	1	4	6	
	細 菌 塗 抹	2		1					
便	寄 生 虫	139	22	18	81	5	2	2	9
	潜 血 反 応	1			1				
血	血 球 計 算	281	42	22	59	79	19	26	34
	血 色 素	411	59	53	89	82	30	29	69
	全 血 比 重	8			3	2	1	1	1
液	A B O式血液型	269	58	32	28	72	31	24	24
	R H式血液型	95	15	14	15	30	6	12	3